

第 13 話 自動車会社は目覚めよ!

過去にプリンス自動車、アカイ電気、山一証券、拓銀などというその時代には謳歌された大企業が露と消えるのを私は見てきた。特にメーカーは時代の変化、顧客のニーズに答えずに唯我独尊状態でいると、気がついたら世の中から置き去りにされるのである。

トヨタの日本国内シェアが今年度は単独で 50%を超えた。リーマン・ショック下でも相手の GM がコケたので世界の座も獲得し、頂点を極めたのである。しかし、ここで唯我独尊と自惚れてはいけない。今、自動車のメカニズムが根底から覆り、それによる生産方式の劇的変化が起きようとしているのだ。『ハイブリットの技術があるから有利だ』などと言ってはられない。私は以前自動車メーカーに身を置いていたが、昔は”鉄は国家なり”とか、”鉄を制する者はエンジンを制し、エンジンを制する者は車を制する”などと、工場に書かれていたのを思い出す。しかし、鉄は必要なくなった!

自動車メーカーの独壇場と言うほど得意な、鋳造、鍛造、機械加工の技術より、高度なバッテリーを生み出すことができれば、過去の全ての優位な技術が無に帰しても構わないほどなのである。

自動車は摺り合わせの技術、パソコンは組み合わせの技術だと、私は前々から言っている。日本が世界に誇る”摺り合わせの技術”が必要となくなるのが、バッテリーで動く EV なのである。日本は電気や化学の技術力においても、強い力を持っている国だと私は信じている。中国や韓国の車が迫って来るのを突き放す、最先端 EV の誕生を願っている。政府もガソリン・スタンド並みに電気スタンドが整備されるインフラ作りを手助けしなければならない。それによる雇用も創出できる筈である。10年後、トヨタ、日産、ホンダではなく、Panasonic 自動車でも SONY 自動車でも良いから、餃子自動車や焼売自動車に負けることなく、日の丸自動車メーカーが世界の座にいてくれることを願うばかりである。